



志免町 町章

町章のデザインは、カタカナで町名「シメ」を表現し、平和のシンボル「はと」が胸をふくらませ、青空に向けて大きく羽ばたく姿をかたどっています。



伝統行事 石投げ相撲

志免農区が主催している悪疫退散の万年願をかけた伝統行事です。

江戸時代末期頃に流行した牛馬の悪疫をなくすために万年願を祈願し、相撲三十三番を奉納したのが始まりといわれています。明治時代に入ると相撲好きの若者が広く郡内外から参加するようになり、年を追うごとに盛大になり、勝負に一喜一憂した人々が熱狂のあまり石を投げ合うほどになりました。ここから「石投げ相撲」という異名が生まれ広がったといわれています。

現在では、健全な青少年育成の一環とし、各地区対抗戦の「こども相撲」や赤ちゃんの健やかな成長を願う「赤ちゃん土俵入り」などが行われています。

旧志免鉱業所 竪坑櫓

かつて志免町は、炭鉱のまちとして栄えていました。開坑から閉山まで、一貫して国営であったのは、日本全国においてもこの「志免鉱業所」だけで、採掘された石炭は上質なものであったそうです。

現在でも、竪坑櫓は当時の面影を伝えながら、また町のランドマークとして堂々とした姿を残しています。



志免町の花 桜

古くから人々に愛されている桜の花は、緑あふれるまちづくりを目指すシンボルとして、志免町の町花として制定されました。

日枝橋、向ヶ丘団地、福祉公園など町内いたるところで見ることができ、春の風物詩となっています。

桜が満開になる時期には、ライトアップします。川の水面に移るその光景は、一見の価値あります。是非、お運びください。